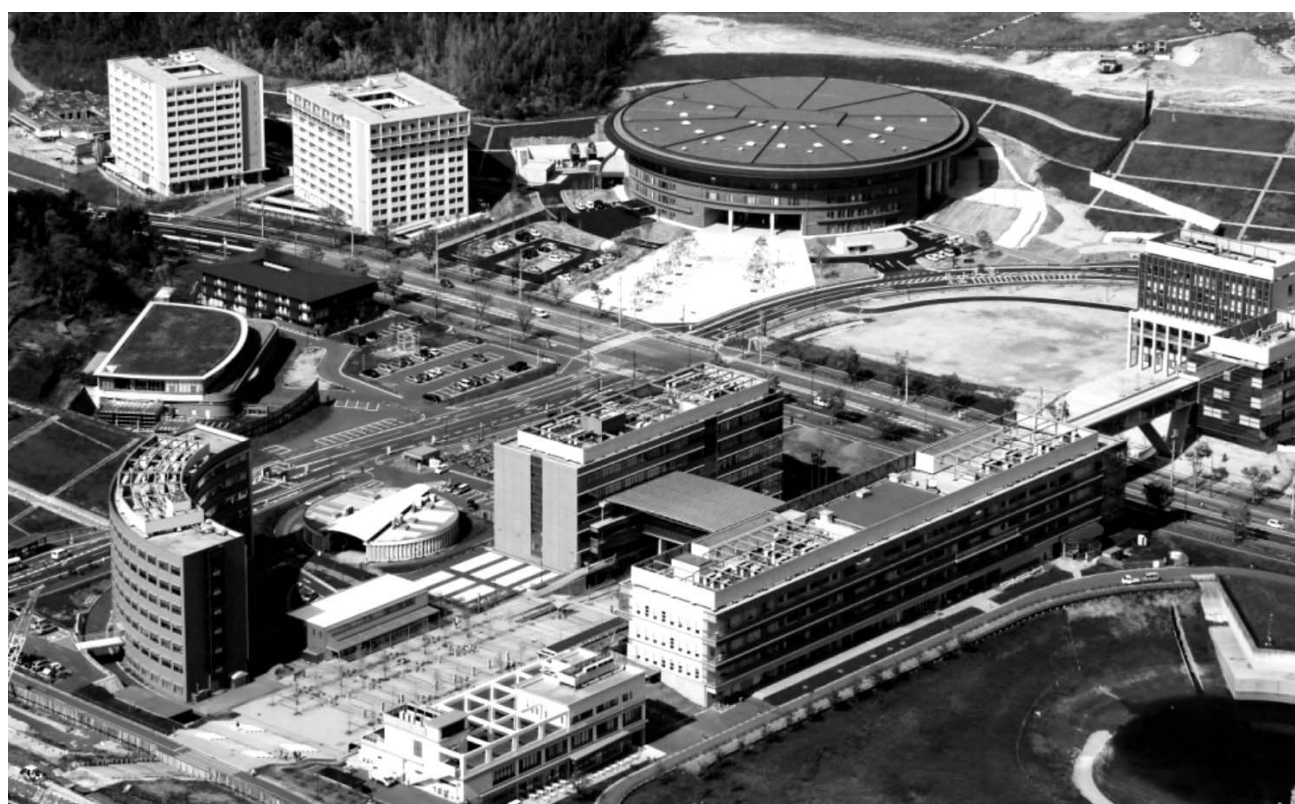


九州大学特集 2014

地域を世界へ、世界を地域へ



伊都キャンパスは面積約271万平方メートル(2014年5月時点)の広大な敷地に各種施設を擁する(撮影者:ミヤザキ ツカサ)

九州大学は伝統ある国立大学法人として、九州に留まらず内外で名実ともに高い存在感を放つ。それを裏打ちするのは、歴史とともに研究実績や人材輩出といった社会的成果。2011年には創立100年を迎え、各分野で世界の上位100大学に位置付けられることを目指して「躍進百大」を旗印にした活動を開始した。

九大は1911年(明治44)、九州帝国大学として東京、京都、東北に次ぐ4番目の帝国大学として創立した。前身となる京都帝国大学福岡医科大学、新設された工科大学との統合によるものだ。工科大には当初、土木と機械、電気、応用化学、探鉱、冶金の6学科が置かれた。『九州大学百年史写真集』によれば、「石炭・製鉄などの産業が勃興しつつあった明治末期の九州に、工科大学の創設が企図されたのは当然のことであった」。その後、学部学科の拡充を進め、49年に新制九州大学となる。

創立から1世紀が過ぎ、産業構造と主要産業が変わった。しかし、産業界から大学に対する期待は変わらない。大学の統合も含めて総合大学として受け皿を広げ、社会の要請に応えてきた。教育・研究分野が広がり、大学の存在意義が多面化した中で要求は高まり続けていく。

九大の産業への貢献は、多様な分野での産学連携や地域との協同を通じて大きな成果を上げていく。中でも次世代エネルギーである水素分野の研究ではトップを走る。福岡県を中心に進める福岡水素エネルギー戦略会議では中核にある。学内に「水素エネルギー国際研究センター」、「次世代燃料電池産学連携研究センター」を擁する。キャンパス近隣には公的機関の「水素エネルギー製品研究試験センター」が立ち、外に開かれた姿勢が重要な。進化を続ける九大の次の100年に対する、注目と期待はさらに高まっている。

移転プロジェクトは現在、18年の完全移転に向けた3ステージの最終段階の事業が走る。一方でキャンパス完成は次代への始まりを意味する。大学には最先端の研究と教育を通じて、新しい技術や人材を生み続けることが不可欠。のみならず産業と地域、市民や海外を含めた域外との連携による、外に開かれた姿勢が重要な。進化を続ける九大の次の100年に対する、注目と期待はさらに高まっている。



1914年(大正3年)の工科大学正門(現在の箱崎キャンパス)



本部が入る椎木講堂は創立100年の象徴。3月に完成した



椎木講堂には3000人収容のホールも(撮影者:ミヤザキ ツカサ)



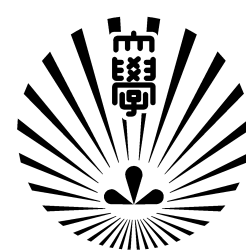
| 九州大学 略年表 | |
|---------------------|----------------------|
| 1911年(明治44) | 九州帝国大学創立 |
| 1919年(大8) | 医学部・工学部に改称、農学部を設置 |
| 1924年(大13) | 法文学部を設置 |
| 1939年(昭14) | 理文学部を設置 |
| 1947年(昭22) | 九州大学に改称 |
| 1949年(昭24) | 新制九州大学となる |
| | 法学部・経済学部・文学部・教育学部を設置 |
| 1964年(昭39) | 薬学部設置 |
| 1967年(昭42) | 歯学部設置 |
| 2003年(平15) | 九州芸術工科大学(1968年創立)と統合 |
| 2004年(平16) | 国立大学法人化 |
| 2005年(平17) | 伊都キャンパス開校 |
| 2011年(平23) | 創立100周年 |
| (「九大広報 百周年特集号」より抜粋) | |

躍進百大

九州大学はすべての分野において世界のトップ100大学に躍進することをめざしています



3000人を収容する日本の大学で最大級の椎木講堂



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY